

多様な主体と協働・連携して実施する取組

※ 本資料は、令和5年12月に実施した取組状況調査に併せてご回答いただいたアンケート結果を元に作成しています。

多様な主体と協働・連携して実施する取組

1. 各機関が多様な主体と協働・連携して実施している取組

(協議会構成機関からの回答)

協働・連携先		取組の内容
市町村	⇔ 防災士、学校、自治会	まるごとまちごとハザードマップを実施するにあたり、地域に住む防災士や生徒に候補地を検討してもらい、その中から行政と自治会で基も効果的な設置場所を決定
	住民等、市町村	ハザードマップに基づき、地域で発生する可能性の高い災害を知り、避難所までのルート確認、非常持出品の準備を行うことで、災害に対する意識を向上させる
	町内会、まちづくり協議会	住民参加の避難訓練
	地域住民、消防署、社会福祉協議会、電力会社 ほか	避難訓練、防災イベント 要支援者に対する避難支援訓練を行うとともに、防災意識の向上を図る
民間会社	⇔ 国機関、県、市町村	事前放流、洪水時における安全なダム放流、関係各所への確実なダム管理状況の報告
県	⇔ 学校、防災士会	小学校での出前講座
	市町村、各種技術協会 郵便局、山地防災ヘルパー	市町村：土砂災害防止法に基づく緊急調査、緊急調査対応マニュアルに基づく役割分担 市町村・郵便局：山地災害防止キャンペーン時におけるリーフレットやポスターの掲示協力 山地防災ヘルパー：地域に密着した山地災害関連情報の収集支援のため、森林保全等に関し知識と熱意がある者へ委嘱し、山地災害に対する的確かつ早急な対策を推進
	建設業協会	有事の際における排水ポンプの操作協力や、年一回の合同操作訓練
	市町村	防災訓練
	農業者	田んぼダムの実証事業や、田んぼダムの理解促進に向けた啓発活動
国機関	⇔ 県、市町村、学校 各種協会	防災訓練・イベントへの参加、講演会の実施、防災教育の実施
	県機関、市町村、学校、 専門家、NPO	防災訓練への参加、講演会の実施、防災教育の実施、イベントによる広報
	市町村	事業概要を紹介するパネル展を開催し、上流域での事業が「自分達にも関わる事」といった気付きを促す

多様な主体と協働・連携して実施する取組

2. 今後、他の主体と協働・連携して実施したい取組

(協議会構成機関からの意見)

協働・連携先		取組の内容
市町村	⇔ 農業団体	農業用水路等の水門を操作することで市街地へ流下水量を削減し、排水路系統の雨水排水能力の向上を図る
県	⇔ 気象台 国機関	県所有の「自主防災組織のリーダー」のチャンネルを活用し、地域住民に対して流域治水に関する啓発や研修会を実施（県・気象台・国等が共催して研修会等を実施）
国機関	⇔ 治山関係機関	合同現地視察
		沿川自治体 大規模開発事業者
		行政機関、民間事業者等と連携し、河川・ダム事業に伴い発生する土砂を有効活用した浸水被害軽減に繋がる盛土、盤上げ
		直轄河川改修事業（外水対策）と沿川自治体による内水対策や土地利用規制との連携
		沿川自治体による内水対策と併せて行う本川の水位低下対策
		河川改修事業と地域活性化やにぎわいの創出の取組、企業誘致に資する計画などとの連携

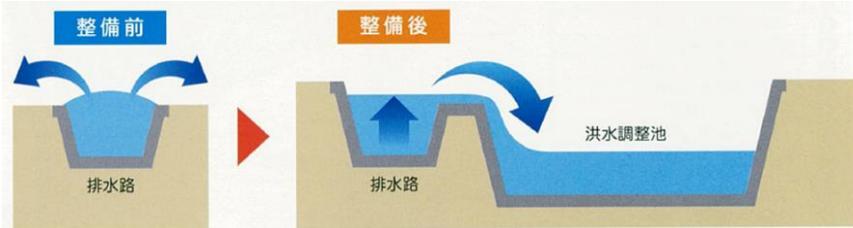
構成機関実務担当者による現場視察

- 流域治水プロジェクトにおける取組の深化や協働・連携による活性化を図るため、流域治水プロジェクト協議会の構成機関の実務担当者が集い現地視察を開催。
- 北陸農政局が整備し、庄川左岸地区農地防災施設管理協議会が管理している「岸渡洪水調整池」等の現地視察を行い、施設の目的や管理方法、令和5年7月出水時における効果について、関係機関との共有を図った。

2. 日時／実施状況

- ▶ 日 時：令和5年11月27日（月）
- ▶ 現地視察箇所：① 庄川左岸地区農地防災事業中央管理所（富山県砺波市一番町108）
② 岸渡洪水調整池（富山県砺波市東中地先）
- ▶ 参加機関：富山市（河川整備課）、砺波市、上市町、立山町、富山県（河川課・砂防課）、北陸農政局、中部森林管理局（飛騨森林管理署）、森林整備センター（富山水源林整備事務所）、利賀ダム工事事務所、富山河川国道事務所

岸渡洪水調整池とは…



洪水時、水路の水が増えた場合に、水路の水を流入させて一時的に貯留し、流出量を調整する施設。下流にある排水路への排水を少なくすることで、負荷の軽減を図ることが出来る。



洪水調整池に貯留した水は、洪水が収束した後で、安全を確認しながら下流域へ排水する。

- ① 排水路の水が多くなると、流入工から1次池へ水を流入する。
↓
- ② 1次池が満水になると2次池、2次池が満水になると3次池に流入する。
↓
- ③ 洪水が収束した後は、1次池の放流工より排水路へ排水させる。



↑ 庄川左岸地区農地防災事業中央管理所での説明状況



↑ 岸渡洪水調整池での現地視察状況



↑ 北陸農政局による岸渡洪水調整池の説明状況



↑ 池敷に設置されている太陽光発電設備

- ・発電した電力の売却益を、年間維持管理費に充てている。
- ・令和5年7月出水時は、3次池まで満水の状態となった。

信濃川水系千曲川における流域治水の取り組み事例

長野市長沼地区(令和元年東日本台風堤防決壊箇所)での災害に強いまちづくりに向けて



- 令和元年東日本台風洪水では、千曲川で観測史上最大の流量を記録。**長野市長沼地区の堤防が決壊**し、甚大な被害が発生。
- **迅速かつ円滑な復旧活動を行う体制の強化**を図るため、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトで発生する**河道掘削土砂を有効活用**し、長沼地区に水防活動の拠点となる、**河川防災ステーションを整備**。
- **関係機関(国・長野市・地元)が連携**し、ワークショップ等を活用しながら、平常時利活用の内容や運用方法について意見交換等を行い、長沼地区の**“復興のシンボル”**となるような、**賑わいある、災害に強いまちづくりの拠点**を目指す。
- 防災ステーションの整備に加え、“地域防災力の向上”にむけ、コミュニティ・タイムラインの作成・実践等を通じて、防災・減災やまちづくりを含む**「流域治水」**の取組を担う地元組織の**“成功の好循環モデル”**を目指す。



防災・減災、まちづくり

<コミュニティ・タイムライン>

- 流域タイムラインと連動した、地域単位での避難行動計画を令和3年に作成。
- 防災訓練を地区で主体的に実施するなど、“地域防災力の向上”に努める。

行政の持つ危機感を特に地区役員と共有
・台風や洪水に対する危機感
・本部(区長)の判断を後押しする情報

地区役員の危機感を住民1人1人に共有し、迅速・的確な避難を後押し
・台風や洪水に対する危機感を共有
・要支援者等に対して、避難を後押しする

千曲川・犀川 流域タイムライン

長沼地区 コミュニティ・タイムライン

住民の迅速・的確な避難

<地域との連携(まちづくり)>

- 関係機関(国・長野市・地元)が連携し、“賑わいある、災害に強いまちづくりの拠点”を目指す。

防災ステーション登録伝達・確認書調印式 (令和3年4月開催)

ワークショップの実施状況 (地元からのアイデア)



長沼地区河川防災ステーション 全体整備イメージ



齋藤国土交通大臣の現場視察状況 (令和5年2月)

利根川上流における取組 ～土地区画整理事業等との連携による稲戸井調節池の掘削土活用～

- （仮称）守谷SAスマートIC周辺土地区画整理事業は、常磐自動車道守谷SAに開設が予定されているスマートIC周辺において、新たな産業用地整備を計画し、職住近接のまちづくりを前進させ、市のさらなる発展を期待。また、産業用地整備における雨水調節池の整備や盛土造成による浸水リスク軽減等の対策が計画されている。
- 稲戸井調節池の池内掘削発生土を（仮称）守谷SAスマートIC周辺土地区画整理事業や利根川左岸及び鬼怒川左岸の弱小堤対策、田中調節池の周囲堤及び囲繞堤整備に活用し、各事業が連携し配土調整することで、当該流域一体となった防災・減災の推進を目指している。
- 上記の取り組みは稲戸井調節池の直上流に位置する地区に関係する方々から、稲戸井調節池の早期整備等の要望があり、併せて早期整備の一助となるよう、土地区画整理事業とのパッケージ化施工を提案いただいているものである。

